

2025 年 9 月 30 日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

生成 AI の業務活用率は 95%に到達！複数 AI サービス利用率は 8 割到達 エンジニアのバンプコーディング率も 6 割以上に

GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループ全体で取り組む生成 AI の活用・業務効率化の取り組みを進め、四半期に一度、生成 AI の活用に関する定点調査（※1）を実施しています。

2025 年 9 月に実施した調査の結果、グループ全体の**生成 AI 業務活用率は 95.0%**に到達しました。また、**AI を活用しているパートナー（従業員）の複数生成 AI サービス利用率が 80.0%に到達しており、1 年前の調査から約 1.5 倍に増えている**ことがわかりました。さらに、**月間の業務削減時間は約 25.1 万時間**に到達し、これは**1,572 人分の労働力を AI 活用により得られている**計算となります。

**生成AI業務活用率95%へ！
複数AIサービス利用8割到達
エンジニアのバンプコーディング率
6割以上に**



■ 調査サマリ

- ・ 2025 年 9 月時点で全体の**生成 AI 業務活用率は 95.0%**（前回調査差+0.9 ポイント）
- ・ 生成 AI を業務に活用しているパートナーのうち 73.6%が「ほぼ毎日活用」
- ・ 複数 AI サービス利用率は **80.0%で 1 年前の調査と比較し約 1.5 倍に増加（前回調査差+12.3 ポイント）**
- ・ 「GMO AI ブースト支援金」^(※2) の効果で、**有料サービス契約率 73.5%（前回調査差+28.0 ポイント）**と大幅増
- ・ グループ全体の**月間の業務削減時間は推定 25.1 万時間**（前回調査差+約 2.7 万時間）となり、人間に置き換えると**1,572 人分の労働力を AI 活用で得られている**
- ・ Gemini CLI や Claude Code といった「AI コーディングエージェント」を利用したバンプコーディングを業務で実践しているエンジニアは 30.2%に留まるも、既に試しているエンジニアも 30.2%で、**合計で 6 割を超えるエンジニアが既にバンプコーディングを実践している**

■調査概要

- ・ 調査テーマ : 「生成 AI 活用」実態調査
- ・ 回答者数 : 6,368 人 (有効回答 5,157 人)
- ・ 調査対象 : GMO インターネットグループの国内パートナー
(正社員、契約社員、アルバイト、派遣社員、業務委託)
- ・ 調査期間 : 2025 年 9 月 8 日 (月) ~ 9 月 12 日 (金) 調査テーマ : 「生成 AI 活用」実態調査

(※1) 2024 年の年間調査結果 : <https://group.gmo/news/article/9330/>

2023 年 11 月 20 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/8680/>

2024 年 04 月 09 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/8922/>

2024 年 07 月 05 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9051/>

2024 年 10 月 09 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9185/>

2025 年 01 月 07 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9330/>

2025 年 03 月 28 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9455/>

2025 年 06 月 27 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9561/>

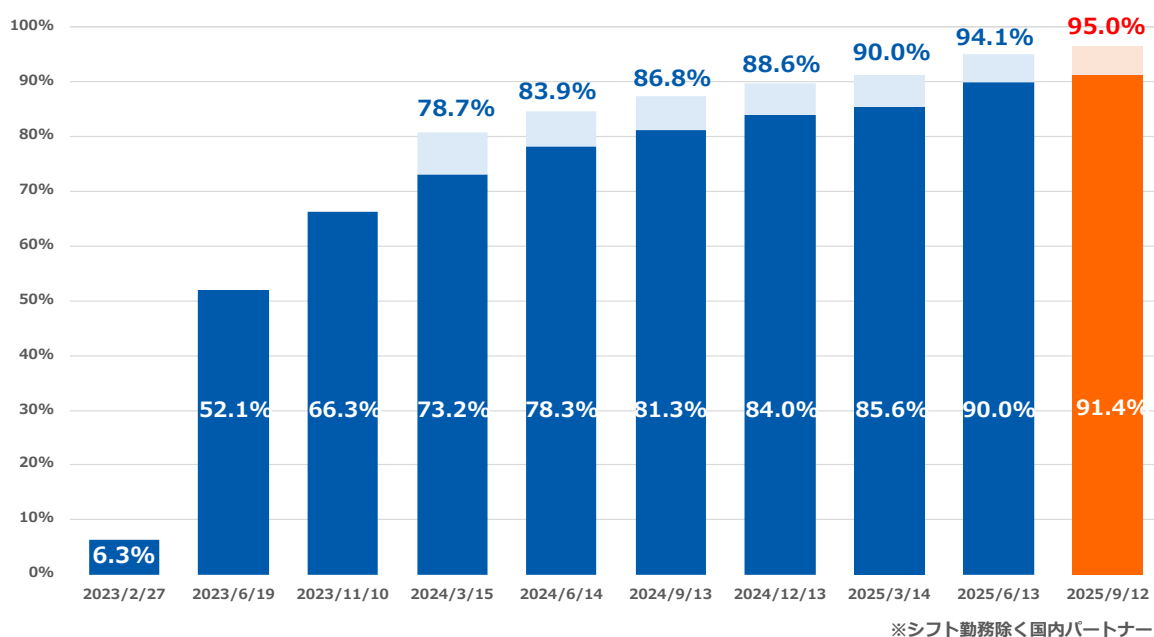
(※2) 「GMO AI ブースト支援金」 <https://group.gmo/news/article/9513/>

【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

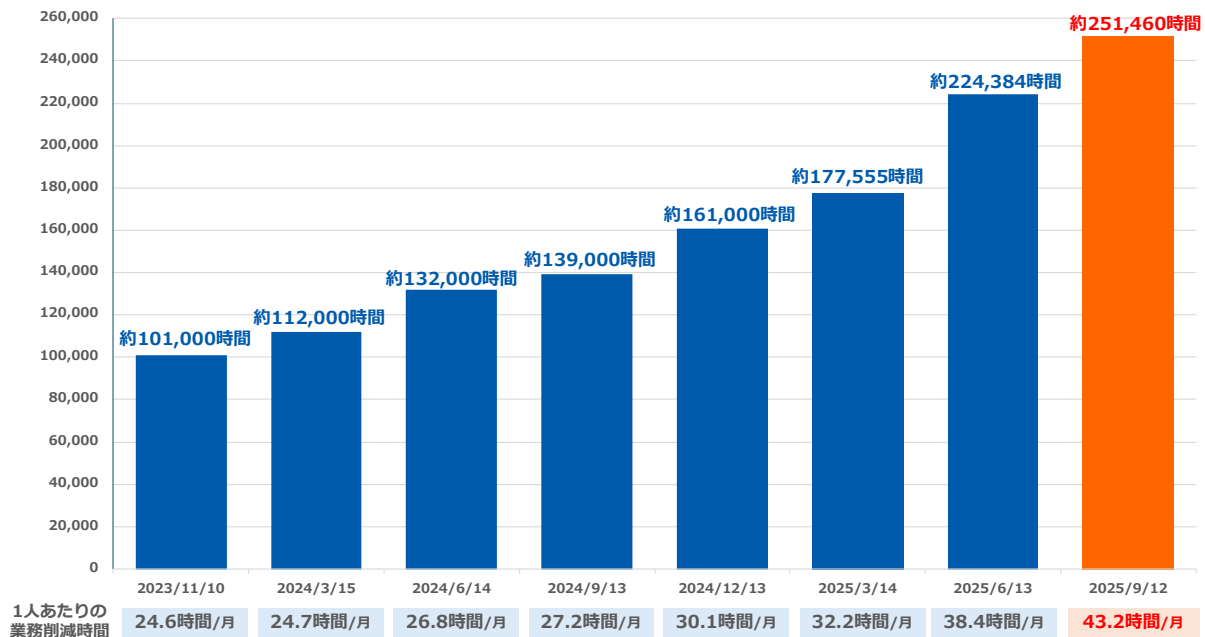
① 生成 AI 業務活用率が 95.0%に、うち 7 割強が「ほぼ毎日」活用

- ・ 国内パートナー (シフト勤務除く) の 95.0%が生成 AI を活用 (前回調査差+0.9 ポイント)。
- ・ 業務に生成 AI を活用しているパートナーのうち **73.6%**が「ほぼ毎日」、**93.1%**が「週 1 回以上」活用していることがわかりました。
- ・ 生成 AI の活用で、ひと月あたり約 **25.1 万時間** (前回調査差+約 2.7 万時間) の削減、1 人あたり約 **43.2 時間** (前回調査差+約 4.8 時間) の削減を実現しました。

生成AI業務活用率



業務削減時間の推移（月間）

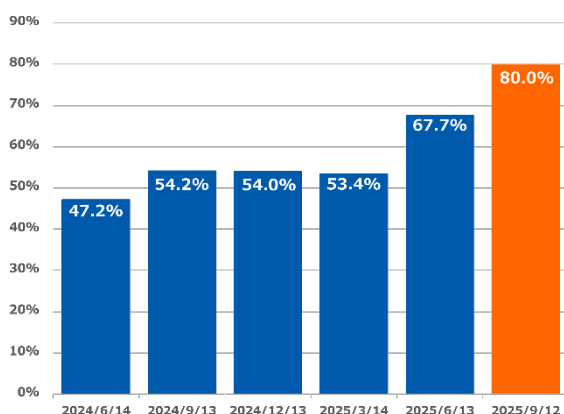


② 複数 AI サービス利用率が 1 年前と比べ約 1.5 倍に増加、80%に

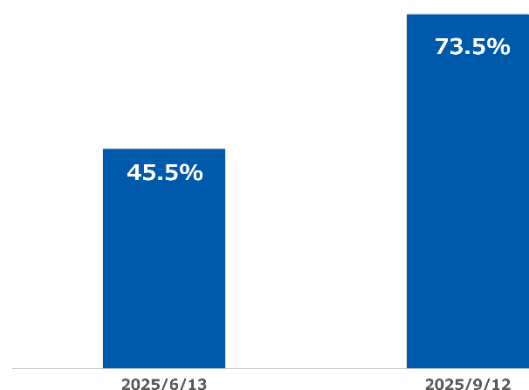
- 生成 AI を業務活用する人のうち、複数 AI サービス利用率は **80.0%**（前回調査差 + 12.3 ポイント）となりました。2024 年 9 月の調査では 54.2%であり、**1 年でおおよそ 1.5 倍に増加**していることがわかりました。
- 有料サービスの契約率は 73.5%**となり、前回調査時よりも大幅に増加をしています。
- 有料サービス契約がしやすくなったことで、複数 AI サービスを使い分けることが浸透しつつあります。
- これらは今年 6 月より開始した「**GMO AI ブースト支援金**」の活用によるものと考えられます。

GMO インターネットグループは、生成 AI はサービスやモデルごとにできることや得意なことが異なるため、これらを用途により使い分けることで、さらに精度の高い生産性向上が見込めると考えています。複数の生成 AI モデルを比較できるサービスとして、「天秤 AI byGMO」^(※3)を提供しており本サービスの活用を社内でも推奨しています。また、「天秤 AI byGMO」の利用のみにとどまらず、変化の速い生成 AI に対応すべく有料の生成 AI サービスも積極的に活用できるよう「GMO AI ブースト支援金」の運用を開始しました。有料の生成 AI サービスは、セキュリティ面の信頼性や最新機能へのアクセス、利用上限の拡大などの利点があり、業務に活用する上で重要な手段となっています。

複数AIサービス利用率（業務活用者）



有料サービス契約率（業務活用者）

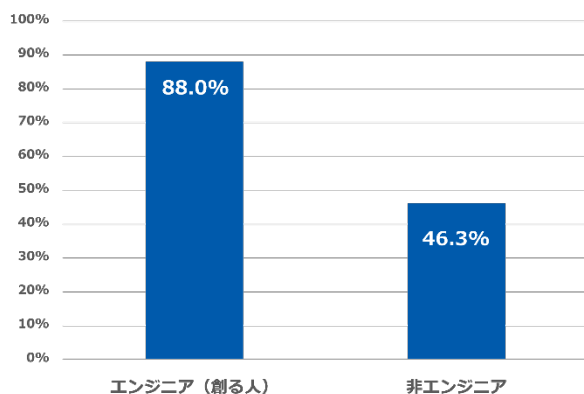


(※3) 天秤 AI byGMO : <https://tenbin.ai/workspace/welcome> 天秤 AI Biz byGMO : <https://biz-lp.tenbin.ai/>

③ バイブコーディングを既に試しているエンジニアが 6 割以上

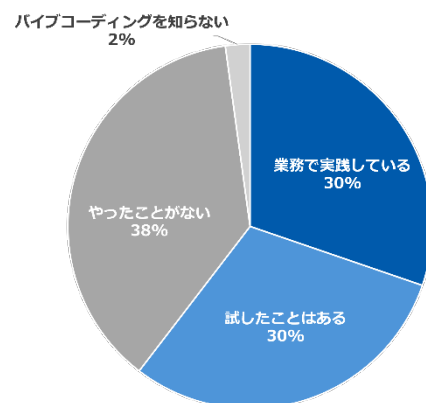
- ・ RPA や Excel などでの業務スクリプトの自動化や関数生成、さらにエンジニアによる GitHub Copilot などの IDE 支援ツール活用といった「生成 AI コーディング率」は、**エンジニアでは 88.0%、非エンジニアでも 46.3%**となりました。
- ・ Gemini CLI や Claude Code といった「AI コーディングエージェント」を利用したいいわゆるバイブコーディングを**業務で実践しているエンジニアは 30.2%**にとどまりました。
- ・ 業務で実践はしていないものの、**既に試しているエンジニアも、同数の 30.2%**で、併せて 60.4%が経験済みでした。コーディングを AI に任せきるバイブコーディングはセキュリティや品質担保といった点でまだ課題もあり、**今後業務へどのように導入するかを模索・検討している段階**であると推察されます。

生成AIコーディング率（業務活用者）



※生成AIコーディング率は、利用用途で
●RPA、GAS、Excel等で利用するスクリプトや関数生成
●プログラムコーディング（支援を含む）
●デバッグ・コードレビュー
を選択した人をもとに計算しています。

バイブコーディング率（エンジニア）



④ AI を利用する中で、人間がやった方が良いと感じることは？

- ・ どのような業務でも、**最終調整・意思決定をするのは人間がやった方がいい**という回答が多くみられました。
- ・ 直近では AI の失敗するパターンが分かってきており、AI は「たたき台・変換・要約・アイデア出し」といった業務を任せるのが良いといった意見がありました。
- ・ **1 年前の調査では、「コード生成は人間がやったほうが良い」という回答が多く見られましたが、現在はバイブコーディングの活用が浸透してきています。1 年で AI に任せられることと、人間がやったほうが良いことの内容に大きく変化が出てきたことがわかりました。**

■パートナーのコメント

<AI を使っていて「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことがあれば教えてください。>

- ・ 「仕上げの部分は人間がやったほうが良いと感じます。100%AI より、70~90%を AI が作り仕上げを人間が行う、が品質的にベストなのではないかと考えます。」
- ・ 「設計（エンジニアリングへ）の意思決定です。生成 AI を活用したエージェントは、タスク対応におけるシングル・ループ学習を前提としており、その設計や前提自体を問い直すことはありません。したがって、生成 AI で高速に試行を繰り返しながら学習し、新たな PDCA を回す意思決定は、人間が担う必要があると考えています。」

⑤ 生成 AI を使いこなしている人の条件とは？

- ・ AI サービスを、モデルやサービスごとに理解し用途に合わせて複数 AI を使い分ける人といった声が目立ちました。
- ・ 普段の業務に取り入れながら、生成 AI を利用したことできちんと成果を出せる（時間削減、品質向上など）人という意見もありました。
- ・ 以前までは、とにかくさまざまな業務で生成 AI を活用する「量」の部分が重視されていましたが、直近では生成 AI の活用法を理解し適切な業務に利用する「質」の部分を追求できる人が使いこなせる人の条件であると推察されます。

■ パートナーのコメント

＜あなたにとって、生成 AI を使いこなせているなと思う人はどんな人ですか？＞

- ・ 「AI サービスやモデルごとの特性、そのサービスの学習モデルや仕組みを理解し適切に使い分けたり、適切なプロンプトを投げたり適切な用途に自然に使えたり、学習モデルごとのバックボーンやメリット・デメリットを比較検討し取舍選択できる人です。」
- ・ 「AI の出力結果に対して、適切なネクストアクション（さらに AI で解析や深掘りをするのか、最終判断として人間が調整するのかの判断）ができており、自分なりの AI の活用方法を見出し、業務に落とし込んでいる人だと思います。」
- ・ 「AI の特徴や限界を理解したうえで、自分の業務を補完する相手としてとらえている人だと思います。資料作成やコード生成を AI に任せつつ、自分は判断や調整に集中するなど、役割分担を意識して成果につなげられる人がそうだと考えます。」

【グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培（り じゃんべ）コメント】

非エンジニア向けの“バイブコーディング”の浸透に、足元で最も注力しております。一足飛びだと映る場面もあるかもしれませんが、私たちは内製のリスキリング講座とオンライン AI セミナーを継続的に実施することで、定型業務の自動化を自ら実装できる“当たり前”の水準へ引き上げてまいります。この『非エンジニア向けの“バイブコーディング”』も、半年後には、社会の標準として“当たり前”に浸透しているのかもしれません。



【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を主軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。^(※4) なお、生成 AI を活用し、2024 年は年間で推定約 150 万時間の業務削減を実現しています。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社以上に在籍する約 8,000 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50% を超えています。（2025 年 6 月末時点）

（※4）参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み <https://group.gmo/ai-history/>

GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載しております。

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 倉田

TEL : 03-5456-2695

問い合わせフォーム : <https://group.gmo/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://group.gmo/>)

会 社 名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449)
所 在 地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代 表 者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事 業 内 容	■インターネットインフラ事業 ■インターネット広告・メディア事業 ■インターネット金融事業 ■暗号資産事業
資 本 金	50 億円

Copyright (C) 2025 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.

【別紙 : GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

■①時間とコストの節約

- 2023 年 4 月より賞金総額 1,000 万円の社内公募コンテスト「AI (愛) しあおうぜ! ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施。AI に関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装しました。
- AI に関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
- AI に関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトや GPTs の共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
- 非エンジニアを対象としたリスティング施策として、社内の有識者が講師となり、3 か月間の短期 AI 人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
- 全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
- Slack 上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。
- 2024 年 12 月に、「AI 熊谷正寿」実現へのステップとして社内向け独自 AI ツールを提供開始しました。本ツールは「GMO イズム」を学習した“バーチャル知的ナビゲーター”です。
(<https://group.gmo/news/article/9305/>)

■②既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。詳しくはこちら (<https://group.gmo/ai-history/>)

■③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

- 2023 年 5 月に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI&Web3 株式会社」へと社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を実施しています。
- NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。(<https://group.gmo/news/article/8677/>)

(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)

3. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。(<https://oshiete.ai/>)
4. 2024 年 6 月に、GMO AI&ロボティクス商事株式会社（通称 GMO AIR）を設立し、AI とロボット・ドローンの導入・活用支援を軸とした新たな事業を開始しました。(<https://group.gmo/news/article/9010/>)
5. 2024 年 11 月に、「NVIDIA H200 Tensor コア GPU」と「NVIDIA Spectrum-X」イーサネット ネットワーキング プラットフォームを採用した「GMO GPU クラウド」の提供を開始しました。
(<https://group.gmo/news/article/9271/>)